

日本民俗学会 第70回年会 東京

第3回 サーキュラー

主催 一般社団法人日本民俗学会

共催 講研究会

日程

10月13日(土)

- 9:00～ 9:30 理事会 (本部棟 6階大会議室 1, 2)
- 9:45～12:00 評議員会 (本部棟 6階大会議室 1, 2)
- 12:00～ 受付開始 (3号館 2階入口)
- 13:00～16:00 公開シンポジウム (3号館 2階 207 教場)
「「講」研究の可能性—一人のつながりの追究に向けて—」
- 16:15～17:50 研究奨励賞授賞式・会員総会 (3号館 2階 207 教場)
- 18:00～20:00 懇親会 (3号館 1階食堂)

10月14日(日)

- 9:00～ 受付開始 (3号館 2階入口)
- 10:00～12:00 研究発表 (午前) (3号館 2階・3階)
- 12:00～13:00 昼食 (3号館 2階 207 教場をご利用ください)
- 13:00～16:00 研究発表 (午後) (3号館 2階・3階)

- 12:00～13:00 ドイツ民俗学会若手研究者ポスターセッション
(3号館 2階 211 教場外側)
- 13:00～17:00 日本民俗学会・ドイツ民俗学会共催国際シンポジウム
「ドイツ民俗学の最前線」 (3号館 2階 210 教場)

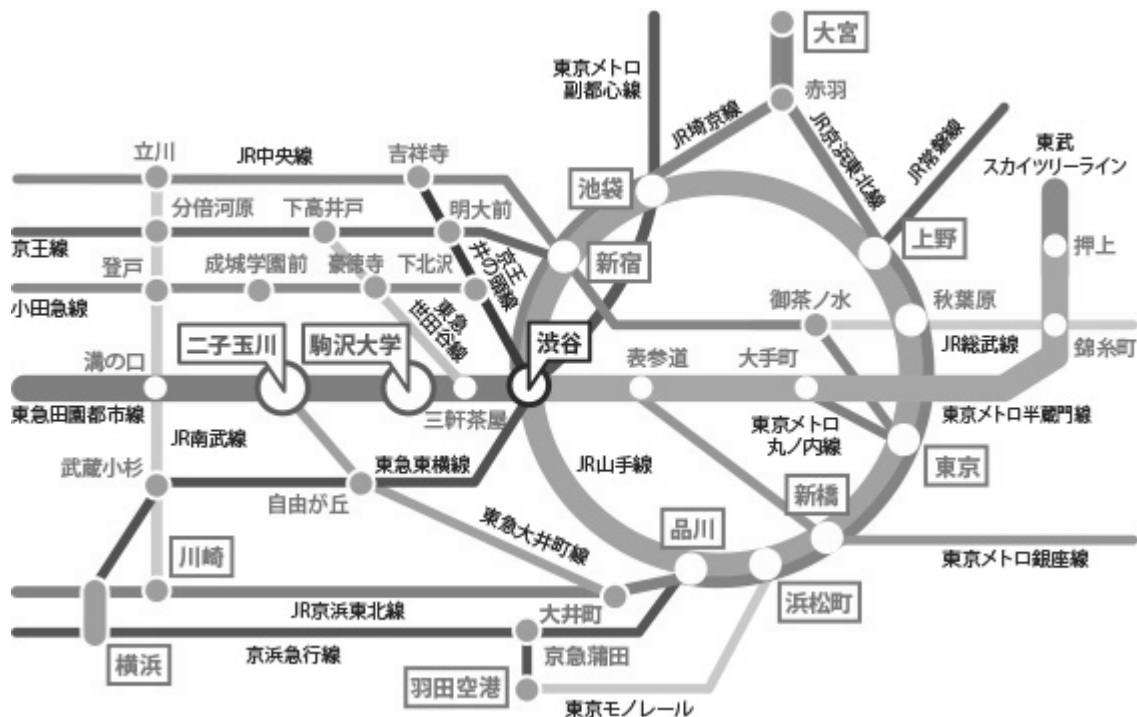
会場 駒澤大学駒沢キャンパス (東京都世田谷区駒沢 1-23-1)

会場アクセス

- ・渋谷駅から東急田園都市線に乗り、「駒沢大学」駅下車。「駒沢公園口」出口より徒歩約10分。 ※急行は停車しません。
 - ・自由が丘駅1番バスのりばから東急バス「駒大深沢キャンパス前」ゆきに乗り、終点下車。徒歩約8分。
- ※駒澤大学ウェブサイトの交通アクセスのページもご参照ください。上記以外のバス便についても記されています。

<https://www.komazawa-u.ac.jp/access/>

駒沢大学駅への交通アクセス



駒沢キャンパス周辺地図

- ・ 13日（土）は正門と北門が利用できます。ただし、北門は、14時までは入構のみ、14～19時は退構のみで、19時以降は閉まっています。
- ・ 14日（日）は北門は閉まっています。正門をご利用ください。



駒沢キャンパス内地図

- ・理事会・評議員会は、本部棟 6 階大会議室で開催されます。
- ・年会の受付は、1 号館側から橋を渡って 3 号館 2 階に入ったところにあります。
- ・公開シンポジウム・懇親会・研究発表・書籍販売などはすべて 3 号館で行われます。



年会参加の皆さまへ

□年会受付

- ▽受付場所は、13日（土）・14日（日）とも、3号館（種月館）2階入口です。
- ▽参加費を納入済みの方は、お名前をおっしゃっていただいたうえで、名札をお受け取りください。研究発表要旨集を申し込まれた方には、要旨集もお渡しします。
- ▽参加申し込みをされたものの参加費が未納の方、当日参加申し込みをされる方は、「参加当日受付」にてお申し込みください。今年度は、参加費が未納の方には、名前入りの名札を用意しておりませんのでご了承ください。
- ▽当日の年会参加費は、一般 3,000 円、学生 1,500 円です。学生料金は、年会当日、学生証を提示した方に適用されます。

□名札

- ▽会場では、常時、名札をお付けください。
- ▽懇親会に参加できる方は名札に記載されています。懇親会には、必ず名札を付けてご参加くださいますようお願い申し上げます。
- ▽名札は、お帰りの際にスタッフまたは回収箱へお返しくください。

□懇親会

- ▽懇親会は、13日（土）18時より、3号館1階食堂にて行います。
- ▽懇親会場に入場する際には、名札を会場入口の係にご提示ください。
- ▽当日、参加を申し込まれる方は、「懇親会当日受付」にてお申し込みください。当日の懇親会参加費は、一般 6,000 円、学生 3,000 円です。
- ▽懇親会の間、荷物置き場を近くに用意しますが、盗難・紛失・毀損などについて、実行委員会としては一切責任を負いかねますので、ご了承ください。貴重品は各自で保管をお願いいたします。

□昼食

- ▽13日（土）は、学生食堂（3号館1階）が営業しています。同じ3号館1階のコンビニエンスストアも開いておりますので、ご利用ください。
- ▽14日（日）は、学生食堂もコンビニエンスストアも閉まっています。弁当を予約されていない方は、駒澤大学から駒沢大学駅周辺にかけていくつかある飲食店をご利用になるか、弁当をご持参ください。コンビニエンスストアは、駅と大学の間数軒あります。
- ▽14日（日）の弁当代を納入されている方は、受付の際にお渡しする「弁当引換券」と引き換えに、14日（日）11時30分以降、3号館2階207教場にて弁当をお受け取りください。「弁当引換券」がないと弁当をお渡しできませんので、お忘れにならないようご注意ください。

□書籍・研究雑誌コーナー

▽13日・14日の両日、以下のとおり書籍・研究雑誌コーナーを設けます。

13日（土）12:30～17:30 3号館2階211、212教場

14日（日）9:30～15:30 同上

□喫煙場所

▽喫煙は、決められた喫煙所をお願いします。年会会場に近いところとしては、1号館1階教務部前に喫煙所があります。

□託児室

▽今年度の年会では託児室を開設します。利用申し込み方法などの詳細は、年会ウェブサイトに掲載してあります。

□その他

▽発表会場内では、携帯電話の電源を必ずお切りください。

▽会場内で何かご不明な点がございましたら、スタッフまでおたずねください。

個人発表の皆さまへ

□使用機材

▽各会場にはPC（Windows）が設置され、備え付けのプロジェクターと接続しています。

▽データはUSBメモリでお持ち下さい。

▽持参のPCを使用される方は、備え付けのHDMIまたはVGAケーブル（両方用意してあります）でプロジェクターに接続してください。Macをお使いの方は、アダプタをご用意ください。念のため、データをUSBメモリでも持参されることをおすすめします。

▽無線LANは、eduroamの利用が可能です。詳細は、所属機関でお尋ねください。

□発表受付（14日）

▽発表者は、発表の30分前までに、発表会場の会場係にお申し出ください。ただし、午前最初の発表者は9時45分までに、午後最初の発表者は12時45分までに申し出ください。

▽発表者は、直前の発表が始まるまでに発表会場の「次発表者席」に着席のうえ待機してください。ただし、午前最初の発表者は9時50分より、午後最初の発表者は12時50分より待機してください。

▽午前中の発表者は9時30分から、午後の発表者は12時30分から発表開始時間まで、機器の動作確認のための時間としております。動作確認を行いたい発表者は、この時間帯をご利用ください。

□配布資料

▽配布資料がある場合は、あらかじめ 50 部以上をご用意のうえ、発表受付時に会場係にお渡しください。

▽配布資料の事前送付および複写依頼はお受けすることができません。

□発表時間

▽発表 20 分・質疑応答 5 分とし、以下のようにベルで時間をお知らせします。終了時間は厳守してくださいませようお願いします。

17 分経過 ベル 1 回（発表終了 3 分前）

20 分経過 ベル 2 回（発表終了）

25 分経過 ベル 3 回（質疑応答終了）

▽発表者や座長の交代、聴講者の移動のため、各発表の間に 5 分の時間をとります。この時間は発表延長のための時間ではありませんので、ご注意ください。

▽発表者の責任により発表の開始が遅れた場合には、定刻の範囲内で発表・質疑応答を行ってください。

グループ発表の皆さまへ

□発表受付

▽グループ発表の代表者は、メンバーが揃ったことをご確認のうえ、発表予定時刻の 15 分前までに会場係にお申し出ください。

▽グループ発表の時間枠は、120 分になります。進行、質問の受付、時間配分などの運営は、決められた時間内で各団体に自由に決めてください。終了時間は厳守でお願いいたします。

□使用機材・配布資料

▽取り扱いは、個人発表と同様です。

座長の皆さまへ

▽ご担当の発表が始まる 30 分前までに各会場係にお申し出のうえ、発表会場の「次座長席」にご着席ください。ただし、午前最初の座長の方は 9 時 50 分より、午後最初の座長の方は 12 時 50 分より待機してください。

▽「発表時間」に記した時間どおりに、タイムキーパーがベルを鳴らします。このベルを参考にして、発表が時間どおりに行われるようご配慮をお願いします。

▽進行中に問題が生じた場合は、各会場係へお申し付けください。

公開シンポジウム

「講」研究の可能性 一人のつながりの追究に向けて―

趣旨

現代社会は、ある面で人のつながりを捉えにくい社会である。それは、広域に展開する交通網の整備が地理的な制約を取り払い、昨今の急激な情報技術の高度化が対面すら必要としないあらたなつながりをもたらしていることに象徴される。こうした多様化する人のつながりを改めて主題化することは、現代的な意味を持つテーマであるといえよう。

人のつながりについては、民俗学も地域社会をフィールドとした多くの成果がある。なかでも櫻井徳太郎は、研究課題の一つに「講的人間結合の本質」の解明を挙げ、講を事例としてその結合そのものを主題化しようとした。しかし、その作業は課題を示すだけにとどまっている。本シンポジウムではこの主題を継承しながらも、対象を講の周辺、講以外の集団にまで広げ、人間結合、人のつながりのあり方を考察したい。

講の総合的な把握は困難さがつきまとう。構成員やその性格は多様で、かつ一つの講集団が性格を変化させながら存続していく例も多いからである。しかも講集団は必要に応じて結ばれ、必要がなくなれば解かれる性格も持つため、内部のつながりは緩やかなものとなる。本シンポジウムでは、この講集団のつながりの緩やかさにあえて注目をしていきたい。人のつながりが緩やかで、固定化することがないままでいる集団の分析は、多様化する人のつながりを視野に含むことができ、さらに緩やかなつながりだからこそ社会に活用される様をも分析の俎上に乗せることができるのではないか。そしてこのつながりの特徴を注視する姿勢により、講集団だけにとらわれない視点から、櫻井が解明しようとした「講的人間結合の本質」の追究が可能になるのではないか。

本シンポジウムでは講の持つ人のつながりの緩やかさ、講集団そのものの緩やかさに着目して「講的」な人のつながりを問う方向性を示し、「講」研究の可能性を探ってみたい。

日時 2018年10月13日（土）13:00～16:00

会場 駒澤大学駒沢キャンパス3号館2階207教場

報告

川又俊則（鈴鹿大学）「人生100年時代の信仰グラデーションと講集団」

菅根幸裕（千葉経済大学）「講の近世から近代への変容について―房総の大山講・出羽三山講を事例に―」

戸邊優美（埼玉県立歴史と民俗の博物館）「女講中と女性同士のつながり」

コメンテーター 福田アジオ 三木一彦（文教大学）

コーディネーター 高木大祐（成城大学民俗学研究所）

日本民俗学会・ドイツ民俗学会共催国際シンポジウム

Internationales Symposium der Japanischen und Deutschen Gesellschaft für Volkskunde

ドイツ民俗学の最前線 (Aktuellstes aus der deutschen Volkskunde)

日時 2018年10月14日(日) 13:00~17:00

会場 駒澤大学駒沢キャンパス 3号館 2階 210 教場

挨拶

ヨハネス・モーザー **Johannes Moser** (ミュンヘン大学・ドイツ民俗学会会長)

発表

ベアーテ・ビンダー (フンボルト大学)

「ヨーロッパ民族学・文化人類学における横断的ジェンダー研究」

モーリッツ・エゲ (ゲッティンゲン大学)

「ドイツにおけるポップカルチャー研究の現況—反エリート主義的モチーフをもとに」

ゲアトラウド・コッホ (ハンブルク大学)

「文化遺産、記憶、想起の文化—ドイツにおける研究の歩みと現状」

フリーデマン・シュモル (イエーナ大学)

「文化の挑戦としての自然—民俗学的文化学の研究課題」

発表 (原題)

Beate Binder (Humboldt-Universität zu Berlin)

(Un)Doing Gender. Intersektionale Geschlechterforschung in der Europäischen Ethnologie/Kulturanthropologie

Moritz Ege (Georg-August-Universität Göttingen)

Zum Stand der Popkulturforschung in Deutschland am Beispiel anti-elitärer Motive

Gertraud Koch (Universität Hamburg)

Kulturerbe, Gedächtnis- und Erinnerungskulturen – Stand und Entwicklungen der Forschung in Deutschland

Friedemann Schmoll (Friedrich-Schiller-Universität Jena)

Natur als Herausforderung der Kultur. Forschungsaufgaben volkskundlicher Kulturwissenschaft

※日本語通訳がつきます。通訳：金城ハウプトマン朱美、クリスティアン・ゲーラート

ドイツ民俗学会若手研究者ポスターセッション

Posterpräsentationen der Nachwuchswissenschaftler_innen der dgv

国際シンポジウム「ドイツ民俗学の最前線」開催にともない、ドイツ民俗学会の若手研究者によるポスターセッションを実施します。ポスターは、年会会期中の10月13日(土)13:00から10月14日(日)17:00まで、ポスターセッション会場に掲示します。

日時 2018年10月14日(日)12:00~13:00(昼食時間帯)

会場 駒澤大学駒沢キャンパス3号館2階211教場外側

発表

ラウラ・ゴッツァー (ミュンヘン大学)

「"Save Me"と都市：ミュンヘンの難民支援における都市的倫理の主観化」

オヤ・レツニコヴァ (ゲッティンゲン大学)

「トラック運転手ストライキにおけるキッチンの役割：ロシアにおける抗議運動の前提条件と矛盾としての再生産とケアワーク」

アリク・マズカトフ (フンボルト大学)

「法を活用し、道徳を変える：社会的実践としての差別禁止法」

発表 (原題)

Laura Gozzer, M.A. (Ludwig-Maximilians-Universität München)

"Save Me", and the city. Urban-ethical subjectifications in the support for refugees in Munich.

Olga Reznikova M.A. (Göttingen University)

"The Trucker Strike's Kitchen: Reproduction and Care Work as Precondition for and Contradiction within a Protest Movement in Russia"

Alik Mazukatow M.A. (Humboldt-Universität zu Berlin)

"Engaging Law, Transforming Moralities: Antidiscrimination Law as Social Practice"

※使用言語：英語

※通訳など担当：川松あかり・小泉優莉菜

発表タイムテーブル

(10月14日)

| 会場(教場) | A (301) | B (302) | C (303) | D (304) | E (305) | F (306) |
|-------------|---------------|--------------|--------------|---|---|--------------|
| 10:00~10:25 | A-1 増野高司 | B-1 遊佐順和 | C-1 田中亜純 | D-1 村田典生 | E-1 矢島妙子 | F-1 荒 一能 |
| 10:30~10:55 | A-2 三好周平 | B-2 甘 靖超 | C-2 前田一舟 | D-2 古谷野洋子 | E-2 華 雪梅 | F-2 尾曲香織 |
| 11:00~11:25 | A-3 早坂優子 | B-3 卯田宗平 | C-3 福 寛美 | D-3 加藤正春 | E-3 秋野淳一 | F-3 樋田竜男 |
| 11:30~11:55 | A-4 立柳 聡 | B-4 西川桂史 | C-4 伊藤 茜 | D-4 越智郁乃 | E-4 東出紘明 | F-4 鈴木慶一 |
| 12:00~13:00 | (昼食) | | | | | |
| 13:00~13:25 | A-5 渡部鮎美 | B-5 後藤康人 | C-5 松山由布子 | D-5 岡田真帆 | E-5 市東真一 | F-5 柴田千賀子 |
| 13:30~13:55 | A-6 玉井里奈 | B-6 三津山智香 | C-6 石山奏美 | D-6 渡邊直登 | E-6 石川俊介 | F-6 湯川洋史 |
| 14:00~14:25 | A-7 吉村 風 | B-7 中山正典 | C-7 加藤基樹 | D-7 森 謙二 鈴木岩弓 山田慎也 土居 浩 (~16:00) | E-7 谷部真吾 中里亮平 菊田祥子 阿南 透 内田忠賢 (~16:00) | F-7 池田貴夫 |
| 14:30~14:55 | A-8 岩野邦康 | B-8 黒田迪子 | C-8 中村 琢 | | | F-8 今野善伸 |
| 15:00~15:25 | A-9 澤井真代 | B-9 岡田伊代 | C-9 横田慶一 | | | F-9 伊藤ひろみ |
| 15:30~15:55 | A-10 阿利よし乃 | B-10 渡部圭一 | C-10 小池淳一 | | | F-10 板橋春夫 |

| G (312) | H (202) | I (203) | J (205) | K (206) | L (210) |
|--------------|--|--------------|--------------|--|----------------------------|
| G-1 羽田野 京 | H-1 宮平盛晃 | I-1 加賀谷真梨 | J-1 川松あかり | K-1 橋本好史 | |
| G-2 清水亨桐 | H-2 田中久美子 | I-2 川森博司 | J-2 佐藤 匠 | K-2 橘 弘文 | |
| G-3 山村恭子 | H-3 市川秀之 | I-3 田村和彦 | J-3 高安淳一 | K-3 角南聡一郎 | |
| G-4 大江 篤 | H-4 鈴木英恵 | I-4 雷 婷 | J-4 山本芳美 | K-4 武井基晃 | |
| | | | | | ドイツ・ポスターセッション (211外側) |
| G-5 小林兆太 | H-5 伊賀みどり | I-5 池谷和信 | J-5 山下裕作 | K-5 阿部宇洋 | 日独国際 シンポジウム (~17:00) |
| G-6 小野寺佑紀 | H-6 林 春伽 | I-6 川野和昭 | J-6 東城義則 | K-6 及川 高 | |
| G-7 木谷悠人 | H-7 田村義也 加藤秀雄 広川英一郎 三村宜敬 (~16:00) | I-7 伊藤 敏 | J-7 趙 歆 | K-7 渡邊欣雄 山内健太朗 関口知誠 荒井浩幸 (~16:00) | |
| G-8 澤田洋子 | | I-8 岸本昌良 | J-8 樽井由紀 | | |
| G-9 金田久璋 | | I-9 川出康博 | J-9 平井芽阿里 | | |
| G-10 田中宣一 | | I-10 由谷裕哉 | J-10 森田真也 | | |

A 会場

- A-1 10:00～10:25 増野高司（総合研究大学院大学・客員研究員）
東北地方における芋煮の地域性—広瀬川（仙台市）の事例から—
- A-2 10:30～10:55 三好周平（大森 海苔のふるさと館）
「丁場」から見た海苔生産者の相互扶助組織
- A-3 11:00～11:25 早坂優子（多賀城市教育委員会）
集落の移転と人々のつながりの変化について
—宮城県多賀城市における海軍工廠建設に伴う集落移転の事例から—
- A-4 11:30～11:55 立柳 聡（福島県立医科大学）
位牌分けと村落構造—山梨県東部地域の事例をめぐる考察—
- 昼食休憩
- A-5 13:00～13:25 渡部鮎美（放送大学非常勤講師）
過疎高齢化地域での中学卒業後の進路問題—新潟県十日町市松代を事例に—
- A-6 13:30～13:55 玉井里奈（成城大学大学院）
圃場未整備地域における「農」の役割—環境保全や家の関係維持に注目して—
- A-7 14:00～14:25 吉村 風（国立国会図書館）
二つの「生活改善」と民俗
—滋賀の飯券（はんけん）制度と生活改善規約の改正をめぐって—
- A-8 14:30～14:55 岩野邦康（新潟市新津鉄道資料館）
地域社会における農業機械史の展開と民俗誌
—歩行型トラクター・自脱型コンバインの普及を事例として—
- A-9 15:00～15:25 澤井真代（日本学術振興会特別研究員）
沖縄石垣島南部地域におけるツカサのつながり
- A-10 15:30～15:55 阿利よし乃（沖縄県）
沖縄県波照間島のユイマール—サトウキビ収穫作業にみる人びとのつながり—

B会場

- B-1 10:00～10:25 遊佐順和（札幌国際大学短期大学部）
昆布文化の継承意義と課題
- B-2 10:30～10:55 甘 靖超（名古屋大学）
趣味的養蜂と専業養蜂の特徴の比較—養蜂現場の問題解決にむけて—
- B-3 11:00～11:25 卯田宗平（国立民族学博物館・総合研究大学院大学）
ウ類に対する働きかけの違いとその要因—日本と中国の鵜飼をめぐる事例から—
- B-4 11:30～11:55 西川桂史（NPO 法人 郷土のことわざネットワーク）
浜名湖沿岸の集落におけるボラの価値—静岡県湖西市入出の事例に注目して—
- 昼食休憩
- B-5 13:00～13:25 後藤康人（日本カメ自然誌研究会）
国内における養亀経営の変遷—日本で2番目に古い養亀場の事例を中心に—
- B-6 13:30～13:55 三津山智香（筑波大学大学院生）
「家畜を飼養する」という選択—青森県十和田市の畜産農家に着目して—
- B-7 14:00～14:25 中山正典（静岡県）
「農業用水の民俗」を考える—農業用水の管理と創設者を神に祀り上げる心意—
- B-8 14:30～14:55 黒田迪子（國學院大學研究開発推進機構）
現在の野鍛冶の製品と顧客対応
- B-9 15:00～15:25 岡田伊代（荒川区立荒川ふるさと文化館）
「工場町」の模索—東京都鞆し革製造の地域を事例に—
- B-10 15:30～15:55 渡部圭一（琵琶湖博物館）
「はげ山」と村の資源管理—近江国南津田村の共有山を事例に—

C 会場

- C-1 10:00～10:25 田中亜純（國學院大學大学院修士課程）
平将門をめぐる信仰と伝承
- C-2 10:30～10:55 前田一舟（うるま市立海の文化資料館）
沖縄の墓における辟邪の信仰
- C-3 11:00～11:25 福 寛美（法政大学沖縄文化研究所）
シャーマン霊能論—琉球・沖縄—
- C-4 11:30～11:55 伊藤 茜（筑波大学大学院）
半俗半聖と「專業」宗教者—群馬県利根沼田地域のハウエンを事例として—
- 昼食休憩
- C-5 13:00～13:25 松山由布子（日本学術振興会特別研究員（PD））
奥三河の疫神祭祀—山内地区鍵取り屋敷所蔵文献を中心に—
- C-6 13:30～13:55 石山奏美（國學院大學大学院）
天神講の展開—山形県鶴岡市と新潟県燕市の天神講を例として—
- C-7 14:00～14:25 加藤基樹（富山県 [立山博物館]）
「立山信仰」と立山講—信仰の管理者と信者の近世・近代—
- C-8 14:30～14:55 中村 琢（福岡大学）
近世後期英彦山派里修験の地位—唐津を事例に—
- C-9 15:00～15:25 横田慶一（筑波大学大学院生）
天台宗玄清法流僧侶による荒神祓い廻檀法要に見る、「盲僧の歴史」の解釈と実践
—福岡県糟屋郡篠栗町妙音寺の事例から—
- C-10 15:30～15:55 小池淳一（東京都）
東方朔の民俗—陰陽道の民俗態—

D 会場

- D-1 10:00～10:25 村田典生（佛教大学）
墓石を削る願懸け一削られる義賊達の墓石一
- D-2 10:30～10:55 古谷野洋子（神奈川大学日本常民文化研究所）
沖縄県多良間島の葬墓制について一植松明石の報告以降の葬墓制の変化一
- D-3 11:00～11:25 加藤正春（ノートルダム清心女子大学非常勤講師）
近代沖縄の墓制の変容について
- D-4 11:30～11:55 越智郁乃（立教大学）
郷友会墓地の60年一沖縄本島都市移住者団体の墓祭祀を例に一

昼食休憩

- D-5 13:00～13:25 岡田真帆（筑波大学非常勤職員）
両墓制埋葬地の石塔分析にみる「美德」の発生と墓地管理システム
一香川県観音寺市の事例から一
- D-6 13:30～13:55 渡邊直登（宮城県）
代替墓地への墓の移転による移転住民間の関係の変化
一八ッ場ダム水没地域・川原湯の事例から一
- D-7 14:00～16:00 グループ発表
現代日本における墓の無縁化への対応（代表 土居浩）
1. 森 謙二（茨城キリスト教大学）
無縁墳墓改葬制度と〈改葬公告〉のデータからわかること
 2. 鈴木岩弓（東北大学）
永代供養墓の誕生とその展開
 3. 山田慎也（国立歴史民俗博物館）
現代における改葬と合葬式共同墓一和歌山県古座川流域の事例から一
 4. 土居 浩（ものづくり大学）
大阪七墓巡り復活プロジェクトの民俗学的考察

E 会場

- E-1 10:00～10:25 矢島妙子（明治大学 法と社会科学研究所）
祭りの中の「イベント性」―「かごしま春祭 大ハンヤ」と「おぎおんさあ」―
- E-2 10:30～10:55 華 雪梅（神奈川大学大学院）
「熊野徐福万燈祭」の形成と変遷の一考察
- E-3 11:00～11:25 秋野淳一（國學院大學研究開発推進機構客員研究員）
現代「天下祭」に関する予備的考察―神田祭と山王祭の都市祝祭論へ向けて―
- E-4 11:30～11:55 東出紘明（神奈川大学 歴史民俗資料学研究科）
北海道における母村文化を活用した祭礼の研究
―夜高あんどん祭りにおける観光要素と担ぎ手の意識―

昼食休憩

- E-5 13:00～13:25 市東真一（神奈川大学大学院）
都市部の祭礼における青年組織の再編成―熊谷うちわ祭の祇園会を事例に―
- E-6 13:30～13:55 石川俊介（追手門学院大学社会学部専任講師）
物の調達から考える伝統的行事―平成 28 年諏訪大社御柱祭を事例として―
- E-7 14:00～16:00 グループ発表
都市祭礼における「競技化」の民俗学的研究（代表 阿南透）
1. 谷部真吾（山口大学）
「競技化」概念の可能性―森の祭りと伏木曳山祭を事例として―
 2. 中里亮平（多摩）
都市祭礼における「競技化」に関する民俗学的研究
―角館のお祭りにおける本番の変化と曖昧なルール（規範）―
 3. 菊田祥子（成城大学大学院）
灘のけんか祭りにおける勝敗
 4. 阿南 透（江戸川大学）
青森ねぶた祭における審査とその影響
 5. 内田忠賢（奈良女子大学）
「よさこい系」イベント祭りの競技化

F 会場

- F-1 10:00～10:25 荒 一能（茨城県）
休み日慣行の現在—茨城県取手市を事例に—
- F-2 10:30～10:55 尾曲香織（北海道博物館）
北海道における新郎新婦の披露と「結婚祝賀会」—足寄郡陸別町の事例から—
- F-3 11:00～11:25 樋田竜男（たかやまそふと）
阿知女作法と泣き女
- F-4 11:30～11:55 鈴木慶一（國學院大學大学院）
魂呼びと臨死体験
- 昼食休憩
- F-5 13:00～13:25 柴田千賀子（國學院大學大学院生）
七夕の人形飾りについて
- F-6 13:30～13:55 湯川洋史（山口県）
八代・芦北の七夕綱について
- F-7 14:00～14:25 池田貴夫（北海道博物館）
節分で落花生を撒くことについて
- F-8 14:30～14:55 今野善伸（宇都宮大学院 博士課程）
現代における葬送の変容について
—終活ツアー・エンディング産業展などの終活ビジネスをとおして—
- F-9 15:00～15:25 伊藤ひろみ（愛知大学国際問題研究所客員研究員）
「孝」のかけらを拾いあつめる
—沖縄平安座島・比嘉島の長寿祝いを事例として—
- F-10 15:30～15:55 板橋春夫（日本工業大学）
産屋研究の現状と課題、そして将来—5年ぶりの伊吹島デーベヤ調査から—

G 会場

- G-1 10:00～10:25 羽田野 京（筑波大学大学院生）
「踊り捨て」から「固定」へ—姫島盆踊りにみる踊りの原則がゆらぐとき—
- G-2 10:30～10:55 清水亨桐（サニーパレス四谷壺番館）
民俗芸能の再生と発展—江戸川区葛西のおしゃらく行事を事例として—
- G-3 11:00～11:25 山村恭子（千葉県）
安房地方における御船の祭りとお船歌の今
- G-4 11:30～11:55 大江 篤（園田学園女子大学）
民俗芸能の伝播と定着—兵庫県美方郡香美町の「三番叟」を中心に—
- 昼食休憩
- G-5 13:00～13:25 小林兆太（神奈川大学 大学院生）
コガネグモクモ合戦における飼育の手法
—鹿児島県始良市加治木町のフィールドワークから—
- G-6 13:30～13:55 小野寺佑紀（神奈川大学大学院）
三浦半島における海難者供養—横須賀市・三浦市の事例を中心に—
- G-7 14:00～14:25 木谷悠人（國學院大學大学院生）
道切り行事の研究
- G-8 14:30～14:55 澤田洋子（愛知学院大学院生）
神社と椿—成立の背景—
- G-9 15:00～15:25 金田久璋（福井民俗の会）
越前地方における田の神像の図像学的分類
- G-10 15:30～15:55 田中宣一（神奈川県）
田の神としてのエビス、そして大黒

H 会場

H-1 10:00～10:25 宮平盛晃（琉球大学 島嶼地域科学研究所）
沖縄県先島諸島における祭司としての祝女と巫女の境界領域
—櫻井徳太郎の提起した「祝女化」と「巫女化」の検証—

H-2 10:30～10:55 田中久美子（福岡工業大学）
地域社会における信仰の担い手とジェンダー

H-3 11:00～11:25 市川秀之（滋賀県立大学）
若狭漁村における女性祭祀と村落組織

H-4 11:30～11:55 鈴木英恵（群馬パース大学非常勤講師）
食にみる女性の活躍と生きがい—群馬県川場村を事例に—

昼食休憩

H-5 13:00～13:25 伊賀みどり（帝京平成大学非常勤講師）
助産院出産とジェンダー—「産婆」の夫からの聞き書き—

H-6 13:30～13:55 林 春伽（日本女子大学大学院生）
現代における月経の呼称

H-7 14:00～16:00 グループ発表

南方熊楠と日本民俗学の黎明（代表 田村義也）

1. 田村義也（成城大学非常勤講師）

『南方二書』と柳田国男

2. 加藤秀雄（成城大学民俗学研究所）

南方熊楠・高木敏雄往復書簡における「フォークローアソサイチー組織の計画」

3. 広川英一郎（東京都）

南方熊楠の聞き書き

4. 三村宜敬（市立市川歴史博物館）

大正期における本山桂川の与那国島調査—新出資料『落日草紙』について—

I 会場

- I-1 10:00～10:25 加賀谷真梨（新潟大学）
What is folk art?
- I-2 10:30～10:55 川森博司（神戸女子大学文学部）
コミュニティと民俗文化の表象—アメリカ民俗学との対話から—
- I-3 11:00～11:25 田村和彦（福岡大学）
民俗学からハワイの日系人墓地を考える～その1
- I-4 11:30～11:55 雷 婷（東京大学大学院生）
誰が「相続人」なのか
—中国・金山農民画の事例からみる担い手グループの重層性—

昼食休憩

- I-5 13:00～13:25 池谷和信（国立民族学博物館）
佐々木高明の世界 その1—五木村からみた日本の焼畑—
- I-6 13:30～13:55 川野和昭（鹿児島県）
佐々木高明の世界 その2—フィールドの視向—
- I-7 14:00～14:25 伊藤 敏（東京都）
民俗事象の構造主義的解釈と社会心理学的解釈
—柳田國男の「内と外」を巡って—
- I-8 14:30～14:55 岸本昌良（東京都品川区の住人）
日本民俗学会と民間伝承の会と日本民俗協会—柳田の微笑みの理由—
- I-9 15:00～15:25 川出康博（愛知県）
艦内神社と地域との結び付き—軽巡洋艦由良を例に—
- I-10 15:30～15:55 由谷裕哉（小松短期大学）
柳田國男と靖国神社

J 会場

- J-1 10:00～10:25 川松あかり（東京大学大学院生）
体験のない炭鉱を語り伝えること—福岡県の旧産炭地、筑豊の事例から—
- J-2 10:30～10:55 佐藤 匠（東北学院大学大学院生）
近代における「史跡」整備と孝子の顕彰—奥州白石噺の再評価とその後の展開—
- J-3 11:00～11:25 高安淳一（大麻博物館）
麻の葉模様とは—21世紀に生き残る大麻という文化—
- J-4 11:30～11:55 山本芳美（都留文科大学）
神戸におけるイレズミと彫師
—オックスフォード大学ピットリバース博物館収蔵資料より—
- 昼食休憩
- J-5 13:00～13:25 山下裕作（熊本大学）
民俗学の技術とは何か？—モバイル型地域博物館 GIS 開発過程における考察—
- J-6 13:30～13:55 東城義則（国立民族学博物館外来研究員）
鹿守とは何か—奈良公園における保護動物管理職の成立と展開—
- J-7 14:00～14:25 趙 歆（名古屋大学大学院生）
無形文化遺産における公共性についての研究
—中国・甘肅省の河西宝巻を事例として—
- J-8 14:30～14:55 樽井由紀（奈良女子大学）
古さの創造—温泉の祭りを読み解く—
- J-9 15:00～15:25 平井芽阿里（中部大学）
変えてはならないもの、変わりゆくもの
—現代沖縄の村落祭祀の変容と正当化の倫理—
- J-10 15:30～15:55 森田真也（筑紫女学園大学）
沖縄観光における「文化」の活用の展開と現状

K 会場

K-1 10:00～10:25 橋本好史（伊勢民俗学会）

海外の盃状穴について

K-2 10:30～10:55 橘 弘文（大阪観光大学）

源頼政の鶴退治説話の受容について

K-3 11:00～11:25 角南聡一郎（公益財団法人元興寺文化財研究所）

墓上構築物の記憶―「奈良県風俗誌」の記録を中心として―

K-4 11:30～11:55 武井基晃（筑波大学）

暦冊子への書き込み―1年間の予定・記録とその蓄積―

昼食休憩

K-5 13:00～13:25 阿部宇洋（山形大学 学術研究院 講師）

軍事郵便の資料性と従軍日誌の整合性とその活用に関して

―山形県飯豊町添川を事例に―

K-6 13:30～13:55 及川 高（沖縄県）

大正5年奄美大島における村落火災と義捐―宇検村阿室の事例―

K-7 14:00～16:00 グループ発表

観光と地域と実践のはざま―長野県小諸市を事例に―（代表 関口知誠）

1. 渡邊欣雄（東京都立大学名誉教授）

調査意図と調査地紹介

2. 山内健太郎（首都大学東京 博士後期課程）

民俗誌の実践と地域社会との相互関係性についての考察

―『菱野調査報告書』作成プロセスを事例として―

3. 関口知誠（神奈川大学大学院）

報告書の記述は誰がみとめるか？―菱野調査報告書を事例に―

4. 荒井浩幸（成城大学大学院文学研究科）

小諸の観光への取り組みと菱野地域

日本民俗学会第70回年会実行委員会

実行委員長 長谷部八朗

事務局長 小田匡保

実行委員 天田顕徳、石本敏也、市田雅崇、乾賢太郎、菊池健策、鈴木昴太、関敦啓、
高木大祐、谷口貢、塚原伸治、西村敏也、牧野眞一（順不同）

年会事務局 〒154-8525 東京都世田谷区駒沢 1-23-1

駒澤大学文学部地理学科 小田匡保研究室 気付

E-mail minzokugaku70@gmail.com

https://www.komazawa-u.ac.jp/~masaoda/fsj_70/

※連絡はなるべく E-mail でお願いします

